



公認心理師

実習演習担当教員及び
実習指導者養成講習会

令和5年度厚生労働省事業

公認心理師実習演習担当教員及び 実習指導者養成講習会

2023

レポート

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

CERTIFIED

PUBLIC

PSYCHO

LOGIST

もくじ

はじめに	1
1 講習会の概要	2
2 講習会の申し込み状況	8
3 受講者アンケートについて	12
4 今後の展望	22
おわりに	24
参考資料	26



はじめに

令和5年(2023年)11月～令和6年(2024年)2月にかけて、公認心理師の実習演習に携わる教員や現場の指導者を養成するための講習会がはじめて開催されました。

この講習会は、厚生労働省の補助事業として、公認心理師のさまざまな職能団体や心理臨床学会の先生方、5分野の実務者の先生方を中心に総勢30名近い先生方と一緒に実施したのになります。講習会の準備は前年の令和4年度(2022年度)から行われていました。今回と同じように多くの職能団体や学会、5分野の先生方が集まり、公認心理師にとって必要な資質は何か、そのような資質を備えた公認心理師を養成するための講習会はどのような科目が必要かといったことが調査され、カリキュラム案やシラバス案が作成されました。複数年にわたって様々な立場の公認心理師の先生方が連携し、公認心理師の人材育成や資質向上、職業的発展の在り方について調査や協議を重ねてくださったおかげで、今回の講習会を実施することができました。

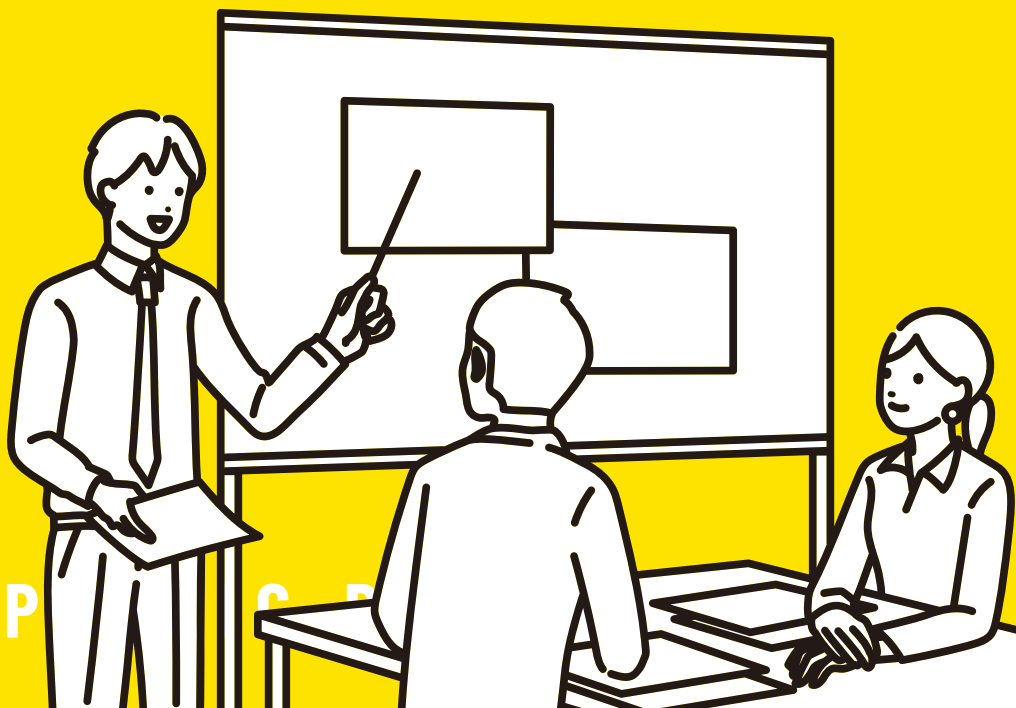
公認心理師制度は施行されてからまだ日が浅く、これから私たち自身で制度をよりよいものに成熟させていく必要があります。そして、そのためには公認心理師内部での連携が不可欠です。講習会の実施に際しては「実習生を送り出す教員の先生方と現場で受け入れる指導者の先生方が一堂に会し、一緒に実習指導のスキルアップを図ること」、「立場や領域や流派などの違いを超えて、ともに未来の担い手の育成や、公認心理師のこれからの在り方について考えること」をコンセプトにしました。

講習会はどの回も熱気や活気にあふれ、各所で活発な意見交換が行われました。そして、想像以上に多くの方から肯定的なフィードバックをいただくことができました。もちろん、初めての試みとして手探りで実施した部分も多く、課題や反省点、実施してみて見えてきたことも多くあります。そこで、今回どのような講習会を実施したのか、どんな方から申し込みがあり、受講された方からの評価はどうであったのかを広くお伝えできればと思い、この講習会レポートを作成しました。これからの講習会をよりよいものにしていくために、そして公認心理師全体の養成や職業的発展につなげていくために、今回の情報が少しでも参考になれば幸いです。

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院 臨床心理部
臨床心理室長 今村扶美

1 CHAPTER

講習会の概要



CERTIFIED PRACTICE

CHAPTER

1

講習会の
概要

実習演習担当教員 及び 実習指導者 養成講習会について

目的

本講習会の目的は、公認心理師の実習演習指導を行う大学・大学院等の教員(以下、担当教員)や、実習施設側として公認心理師の実習生を受け入れる現場の指導者(以下、実習指導者)の養成です。

対象

本講習会の対象は、公認心理師の資格を取得しており、心理支援の業務に5年以上従事している方や、教員として実習演習の指導経験が一定年数ある方です。

公認心理師資格



公認心理師の業である
要支援者への心理支援等に該当する業務経験が
5年以上

公認心理師資格



実習・演習の
指導経験が
3年以上

通算5年以上

公認心理師資格取得後、
公認心理師の業である
要支援者への心理支援等の業務経験

※詳しい受講要件については厚生労働省のHPをご確認ください。
(厚生省HP https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_32992.html)

公認心理師としての経験を5年程度積んだ人は、今度は実習・演習指導に関わる立場となり、後進を育成する役割を担っていくことが期待されます。そうした人たちが、実習・演習指導に関する知識やスキルを身に着け、よりよい指導ができるようになることを講習会では目指しました。そのため、本講習会は公認心理師としての経験が5年程度の方や、実習演習の指導経験が浅い方をメインターゲットとしています。

科目内容

講習会では、決められた科目を受ける必要があります。実習指導者は6科目(計14時間)の講習を、担当教員は12科目(計34時間)の講習を受けることが定められています。

本講習では実習生を送り出す担当教員と現場で受け入れる実習指導者が一堂に会し、それぞれの実情を共有しながら、実習指導の在り方について考え、ともに実習指導のスキルアップを図るというコンセプトのもと、実習指導者と担当教員で共通する科目の部分については「共通科目」として、講習会を合同で実施する形式をとりました。

そのため、受講科目は実習指導者と担当教員が共通して受ける「A:共通科目(6科目)」と、担当教員のみが受ける「B:教員のみ科目(20科目)」とし、以下のような形で実施しています。

対象	必要な受講科目
担当教員	A.共通科目(2日間) + B.教員のみ科目(3日間)
実習指導者	A.共通科目(2日間)

講習会の
カリキュラム作成の経緯は、
このあとのコラムを
ご参照ください

A.共通科目(2日間)

1日目				
時間	h	共通科目	講義	演習
9:30 11:30	2.0	公認心理師 実習演習指導概論	○	○
昼休憩				
12:30 14:30	2.0	実習マネジメント論	○	○
10分休憩				
14:40 16:10	1.5	実習演習 コミュニケーション論	○	
10分休憩				
16:20 17:50	1.5	実習演習 コミュニケーション論		○
7.0				

2日目				
時間	h	共通科目	講義	演習
9:30 12:00	2.5	実習指導方法論I	○	○
昼休憩				
13:00 14:30	1.5	実習指導方法論II	○	
10分休憩				
14:40 16:40	2.0	実習指導方法論II		○
10分休憩				
16:50 17:50	1.0	公認心理師 実習演習指導総論		○
7.0				

B.教員のみ科目(3日間)

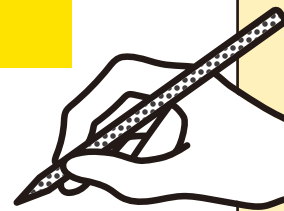
1日目				
時間	h	共通科目	講義	演習
9:30 12:00	2.5	公認心理師による支援の 実際	○	
昼休憩				
13:00 14:30	1.5	公認心理師による支援の 実際		○
10分休憩				
14:40 16:40	2.0	心理演習指導方法論	○	
6.0				

2日目				
時間	h	共通科目	講義	演習
10:00 11:30	1.5	心理演習方法論I	○	
昼休憩				
12:30 14:30	2.0	心理演習方法論I		○
10分休憩				
14:40 16:10	1.5	心理演習方法論II	○	
10分休憩				
16:20 18:20	2.0	心理演習方法論II		○
7.0				

3日目				
時間	h	共通科目	講義	演習
10:00 11:30	1.5	心理演習方法論III	○	
昼休憩				
12:30 14:30	2.0	心理演習方法論III		○
10分休憩				
14:40 16:10	1.5	心理演習方法論IV	○	
10分休憩				
16:20 18:20	2.0	心理演習方法論IV		○
7.0				

※この講習会は厚生労働省の講習会実施要項に基づいて実施されました。

- 厚生労働省HP「公認心理師実習指導者養成講習会の実施について」<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/001094387.pdf>
- 厚生労働省HP「公認心理師実習演習担当教員養成講習会の実施について」<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/001094362.pdf>



講習会カリキュラムができるまで

厚生労働省からの通知で示された講習会のカリキュラムは、令和4年度に行われた「公認心理師の多様な活躍につながる人材育成の在り方に資する調査」事業（株式会社浜銀総合研究所）で原案が作成されました。

この調査は、公認心理師のさまざまな関連職能団体・学会の先生方、5分野の実務者、そして専門家の教育・指導に関わる立場の先生、総勢20名以上の関係者が集まって実施されたものです。調査内容は大きく3つに分かれています。

一つ目は活動実態調査であり、ヒアリング調査をもとに、公認心理師の各現場での業務内容や役割期待、連携状況、求められる能力やその向上に向けた課題や障壁などが整理されました。

二つ目の調査では、活動実態調査を踏まえ、学部から大学院までの養成段階、そして卒後5年段階までのそれぞれのレベルで身に付けておくことが望まれる資質や能力が整理され、「段階別到達目標」が作成されました。

そして、三つ目の調査では、そうした資質や能力備えた公認心理師を養成するために必要な「講習会カリキュラム案」と「シラバス案」が作成されました。現場で求められる公認心理師像と、そこに到達するまでの養成段階からのプロセスをふまえ、卒後5年ほど経過して実習を指導する側になる人たちを養成することを想定し、講習会カリキュラムは作られています。

段階別到達目標の例				
大項目	中項目	学部段階	大学院段階	就職5年目の到達目標
1 公認心理師としての態度	1-1 公認心理師としての倫理性を理解し実践する	1-1-1 公認心理師の職責及び倫理を知る a. 公認心理師の役割を知る b. 公認心理師の法的義務と専門職としての倫理を知る c. 基本的な人権意識を身に付ける d. 個人情報の保護と情報共有の重要性を知る e. 中立的立場を保持することの重要性を知る	1-1-1 公認心理師の職責及び倫理を体験的に理解する a. 公認心理師の役割を理解する b. 公認心理師の法的義務を理解し専門職としての倫理を身に付ける c. 人権意識を持つことの重要性を理解し、要支援者の立場に立つことができる d. 個人情報の保護と情報共有の重要性を実践を通じて理解する e. 中立的な立場を保持することの重要性を実践を通じて理解する	1-1-1 公認心理師の職責と倫理を理解しその姿勢を持って実践する a. 公認心理師の法的義務を理解し職業倫理を身に付け実践する b. 人権意識をもって要支援者の立場に立ち、その方の安全を最優先し必要に応じて命を守る行動をとれる c. 守秘義務を遵守し必要な情報を適切に共有する d. 利益相反を理解し中立的な立場を保持する

スケジュール

講習会は2023年11月～2月にかけて開催されました。担当教員は「A:共通科目」を受けてから「B:教員のみ科目」を受講してもらうことを基本としました。

講習会は、現地会場での参加とオンライン参加の両方の参加形態が選べるようハイブリッド形式で開催しました。また現地会場は、全国の参加者が参加しやすいように東京・大阪・福岡の3つの都市で行われました。

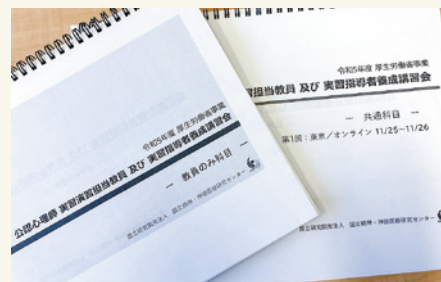
	11月	12月	1月	2月
共通科目	A (共通科目) 2日間 東京現地 +オンライン	A (共通科目) 2日間 大阪現地 +オンライン	A (共通科目) 2日間 福岡現地 +オンライン	
教員のみ科目		B (教員のみ科目) 3日間 第1回 オンライン	B (教員のみ科目) 3日間 第2回 オンライン	B (教員のみ科目) 3日間 第3回 オンライン

実際の講習会の様子

講習会には1,043名の方が参加予定となりました。講習会のなかでは、実習指導に関する講義だけでなく、グループワークによる演習も多く設けられていました。大学等で学生を指導する担当教員と受け入れ施設側の実習指導者が、同じグループの中で実習指導に関する意見交換をしたり、指導場面のロールプレイを一緒に行うという、普段は体験できない貴重な機会となりました。



会場の様子



会場の様子

2 CHAPTER

講習会の 申し込み状況



本講習会は、多くの方々からお申込みをいただきました。どのような方が参加を希望されたのか、本講習会に申し込まれた方の総数や内訳についてまとめた結果をご紹介します。

※本章において、「実習指導者」は実習指導者養成講習申込者、「担当教員」は実習演習担当教員養成講習会申込者を指します。

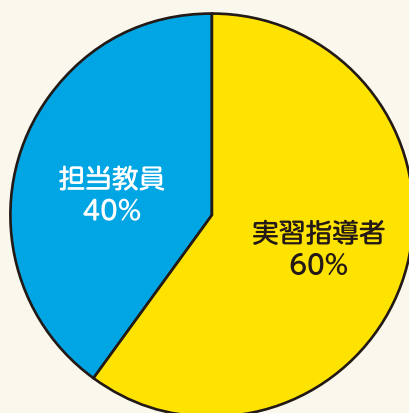
申込者内訳のまとめ

- 当初の想定を上回る**3,000名以上**の方からお申込みいただきました。
- **申込者の7割は既に実習指導を担当している方**でした。一方で、まだ実習指導を担当していない方からの申込みも一定数あり、公認心理師養成への関心の高さがうかがわれました。
- 「実習指導者」の申込者は、担当教員と比較して年齢層が若い・指導経験年数が浅い傾向にあり、**本講習会のターゲット層により近い**と考えられました。

1. 実習指導者と担当教員の内訳

各講習会の申込者 総計／内訳

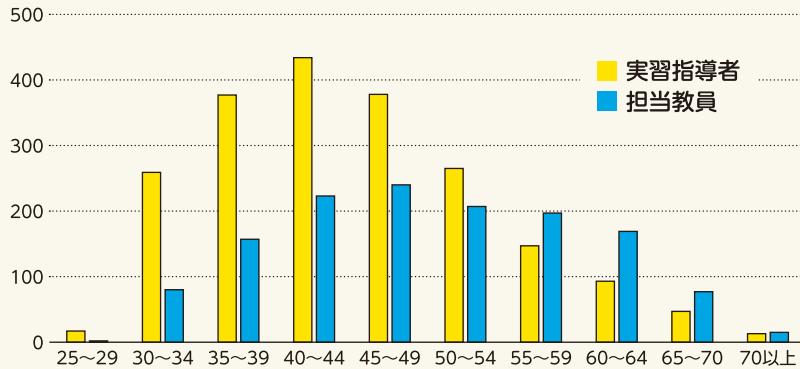
■ 実習指導者 養成講習会	2,037名
■ 実習演習担当教員 養成講習会	1,368名
	総計 3,405名



- 「実習指導者」の方が「担当教員」より1.5倍程度多く申し込みがありました。

2. 申込者の年齢層

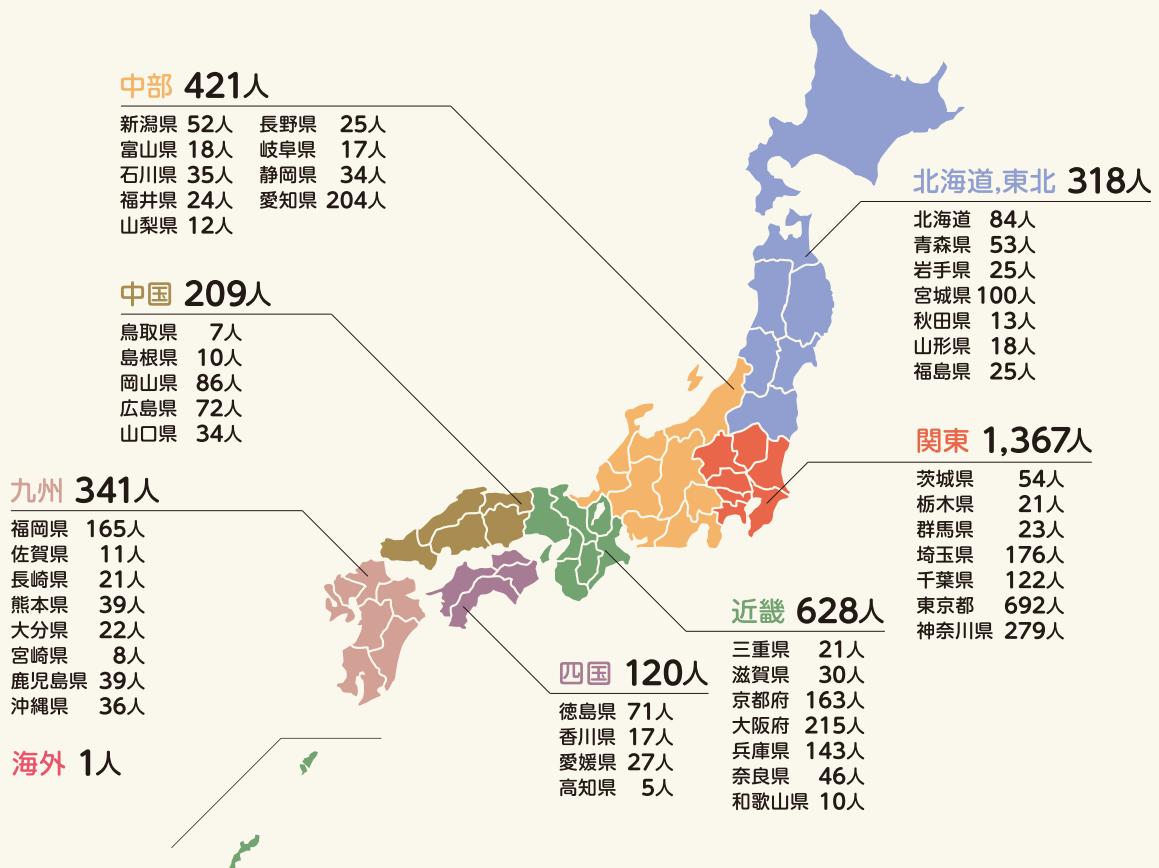
各講習会の申込者 年齢層



- 「実習指導者」は30～40代の中堅層が中心でした。
- 「担当教員」は40～50代の中堅～ベテラン層が中心でした。

3. 都道府県別の申込者数

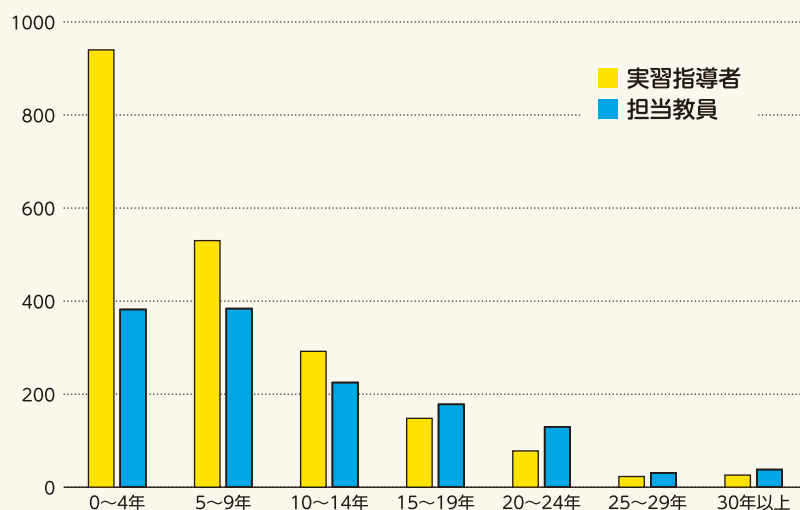
講習会申込者 都道府県別／エリア別 人数



- 首都圏を中心としながらも、全国各地から申し込みがありました。
- 都道府県別では、東京が最も多く、地域別でも、東京近郊を中心とした関東からの申し込みが多くありました。

4. 申込者の実習経験年数

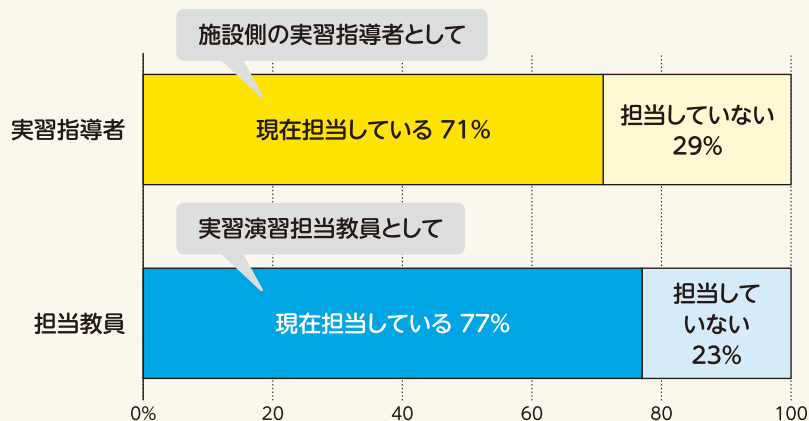
各講習会の申込者 年齢層



- 実習の指導経験については、5年未満、10年未満の層が多くみられました。講習会が対象とするこれから実習演習の指導をする方、指導経験がまだ浅い方が関心を持ってくださったようです。
- 特に、「実習指導者」はその傾向が顕著でした。

5. 申込者の実習指導経験

各講習会の申込者 実習指導の担当について



- 「実習指導者」、「担当教員」とともに、申し込み時点で実習指導の担当経験がある人が7割以上でした。
- 一方で、現在実習指導を担当していない方々からも多数の申し込みあり、これから実習指導を行うことに関心を持つ方も少なくないようです。

3

CHAPTER

受講者アンケートについて



CERTIFIED PUBLIC PSYCHOLOGIST

本講習会では、講習会の受講前と受講後にアンケートを実施しました。科目がねらいとする到達目標に取り組む自信の程度がどのくらいか、講習会の内容が適切であったと思うか、講習会の内容が実習演習指導の役に立つものであったかなどを尋ねています。ここでは、受講者アンケート結果の一部を抜粋してご紹介します。

※本章において、「実習指導者」は実習指導者養成講習受講者、「担当教員」は実習演習担当教員養成講習会受講者を指します。

受講者アンケート結果のまとめ

- **回収率** アンケートの回収率は90%を超えており、非常に多くの受講者からご回答を頂きました。
- **満足度** 全体の9割以上の方から肯定的な評価が得られました。特に、本講習会のターゲット層(心理職経験5年目程度)の方の肯定的評価が高く、これから指導者になっていく方々のニーズにこたえることができたようです。
- **自信の変化** 本講習会の受講前後で、各科目に対する理解や対応する自信について有意な上昇が認められました。
- **内容の適切さ** 「共通科目」「教員のみ科目」とともに、カリキュラムの到達目標に即した適切な内容であるとの肯定的評価が9割以上でした。
- **参加形態の影響** 参加形態の違い(対面/オンライン)による満足度への影響を検討したところ、肯定的な評価の割合に大きな違いはありませんでしたが、対面参加の方がより高い満足感が得られる傾向がみられました。

1. 講習会の受講者数

本講習会には、当初の想定を上回る3,405名の方からの申し込みがあり、応募者多数による抽選の結果、1,043名の方が参加予定となりました。実際の講習会には988名の方が参加され、参加者の方全員にアンケートへの協力をお願いしました。

2. アンケート回収率

アンケート回収率 90.3%

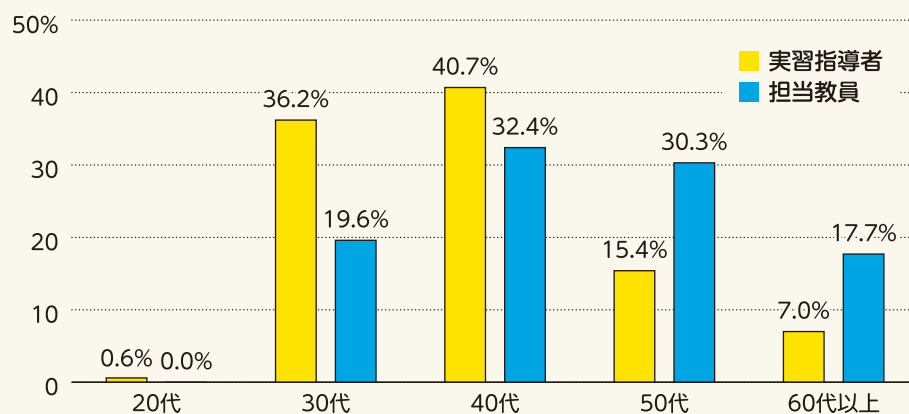
	実習指導者 養成講習会	実習演習担当教員 養成講習会	合計
受講者総数 (キャンセル等を除く)	494名	494名	988名
受講者アンケート 有効回答数 (受講前後共に回答)	469名	423名	892名

- 受講前後アンケート回収率は90%を超えており、非常に多くの方からご回答いただきました。

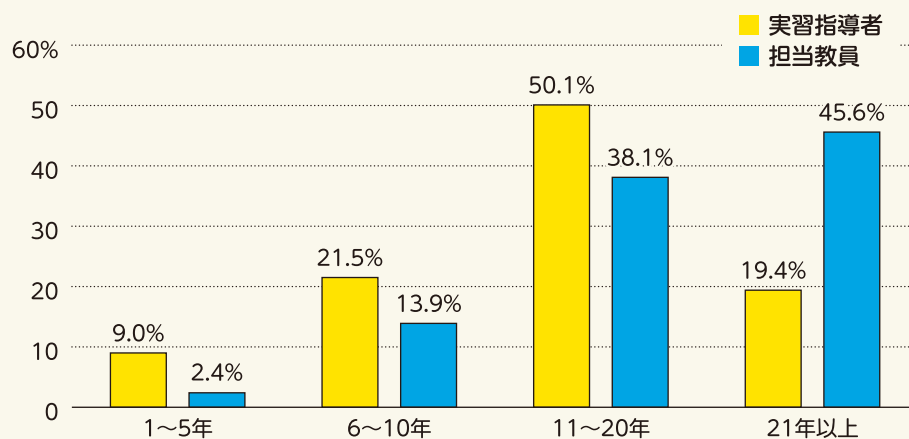
3. 受講者の属性

① 年齢層と臨床経験年数

年齢層



心理職としての臨床経験年数



- 「実習指導者」は30～40代の中堅層、「担当教員」の方が40～50代を中心とした中堅～ベテラン層の割合が多くなっています。これは講習会申込者の分布とおおむね一致しています。

②実習・演習指導経験の有無と経験年数

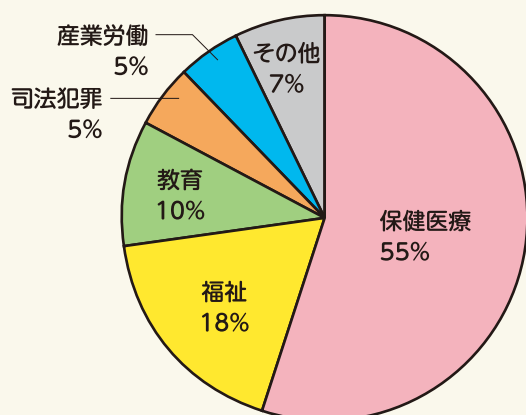
- 公認心理師の養成に関わる、「学部実習(心理実習)」「大学院実習(心理実践実習)」「心理演習」の指導経験の有無・経験年数を尋ねました。結果は各講習会別に整理しています。
- 「実習指導者」は、学部実習より大学院実習の方が経験者が多い傾向です。
- それぞれの項目で3,4割程度は未経験者が含まれています。

各講習会別 公認心理師の実習等指導経験の有無と経験年数

講習会名	経験年数	経験年数別の割合						
		経験無し	1年	2年	3年	4年	5年	6年
実習指導者 養成講習会 受講者 実習指導者としての 指導経験/年数	学部実習 (心理実習)	43%	13%	16%	11%	6%	6%	6%
	大学院実習 (心理実践実習)	31%	10%	11%	11%	8%	13%	17%
担当教員 養成講習会 受講者 実習演習担当教員としての 指導経験/年数	心理演習	31%	8%	8%	10%	13%	9%	22%
	学部実習 (心理実習)	28%	8%	9%	15%	10%	9%	21%
	大学院実習 (心理実践実習)	28%	7%	9%	9%	6%	10%	31%

③実習指導者の所属機関

実習指導者 実習指導をしている/今後指導予定があるあなたの所属機関



- 「実習指導者」に対し、実習指導をしている/指導の予定がある所属機関について尋ねました。
- 「実習指導者」は、保健医療領域の方が最も多く、半数以上となりました。
- 公認心理師の実習は医療機関での実習が必須であるため、実習指導に携わる方の実数が多いことや、実習指導者側のニーズ・関心がより高かったことが考えられます。

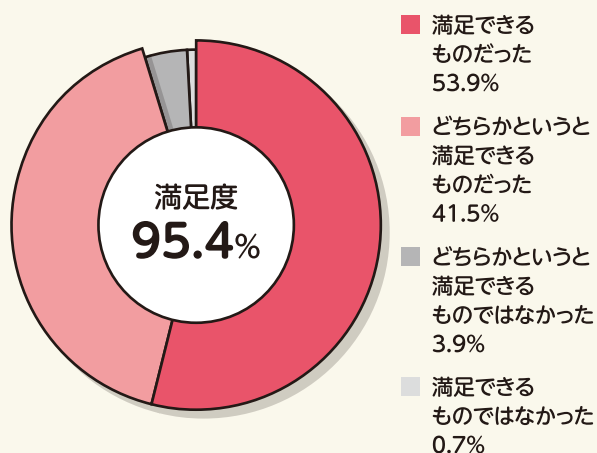
4. アンケート結果

①満足度

- 講習会への満足度を測るため、「満足度」「業務への活用」「養成にかかわる意識づけの高まり」「他の公認心理師に薦めたいか」を尋ねるアンケートを実施しました。
- 結果: **全体の9割以上の方から肯定的なフィードバック**が得られました。
- 受講者の大多数の方が、指導に関する業務に活かせる、育成・養成に関わる意識が高まる、他の公認心理師にすすめたいと感じる講習会であったと評価していました。

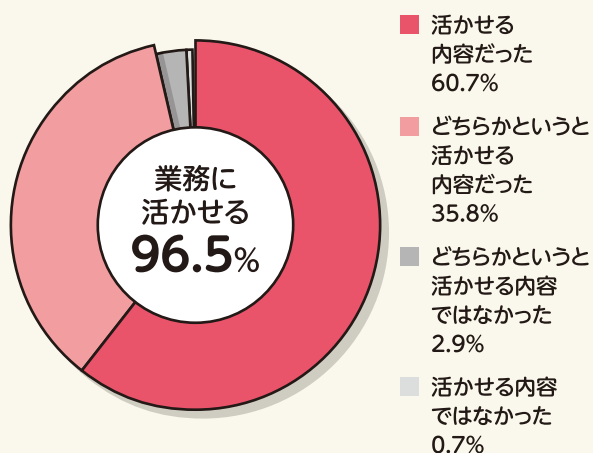
満足度

Q. 講習会の内容は、実習演習担当教員・実習指導者の養成講習会として満足できるものでしたか



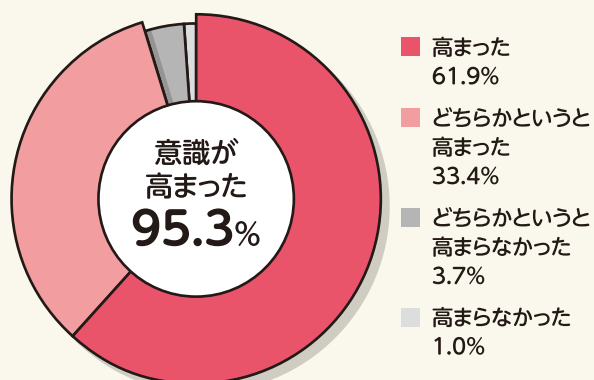
業務への活用

Q. 今後のご自身の実習演習担当教員・実習指導者としての業務に活かせる内容でしたか



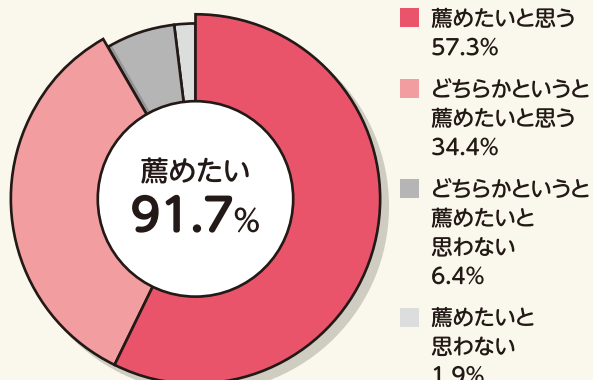
意識づけの高まり

Q. 講習会を受講して、学生の育成・養成にかかわることへの意識づけが高まりましたか



薦めたいか

Q. 講習会の受講を他の公認心理師にも薦めたいと思いますか



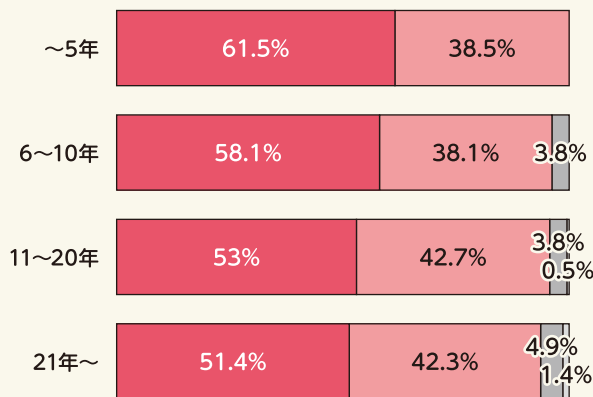
②心理職経験年数別 満足度

- 講習会の満足度に関するアンケート結果を、心理職の経験年数別に整理しました。
- 結果:心理職の経験年数が浅い群の方が肯定的フィードバックの割合が高いことが示されました。
- 本講習会は心理職として5年目程度の経験を積み、指導する側にまわっていく心理職を育成することを想定していることから、ターゲット層への満足度が高かったと考えられました。

経験年数別：満足度

Q. 講習会の内容は、実習演習担当教員・実習指導者の養成講習会として満足できるものでしたか

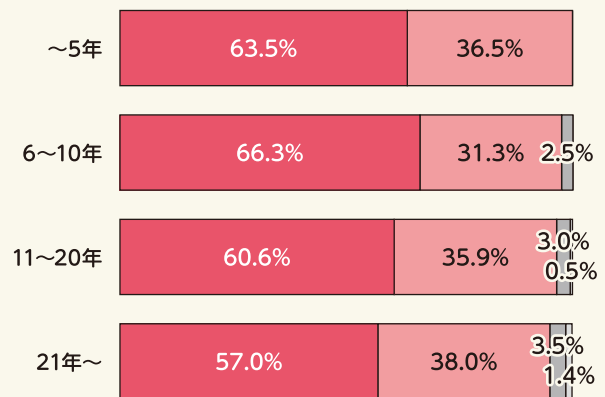
- 満足できるものだった
- どちらかという満足できるものだった
- どちらかという満足できるものではなかった
- 満足できるものではなかった



経験年数別：業務への活用

Q. 今後のご自身の実習演習担当教員・実習指導者としての業務に活かせる内容でしたか

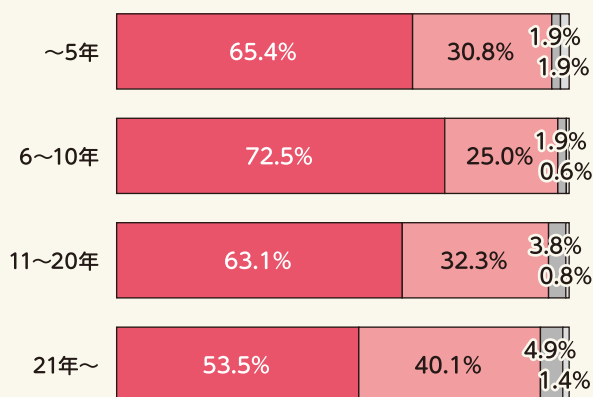
- 活かせる内容だった
- どちらかという活かせる内容だった
- どちらかという活かせる内容ではなかった
- 活かせる内容ではなかった



経験年数別：意識づけの高まり

Q. 講習会を受講して、学生の育成・養成にかかわることへの意識づけが高まりましたか

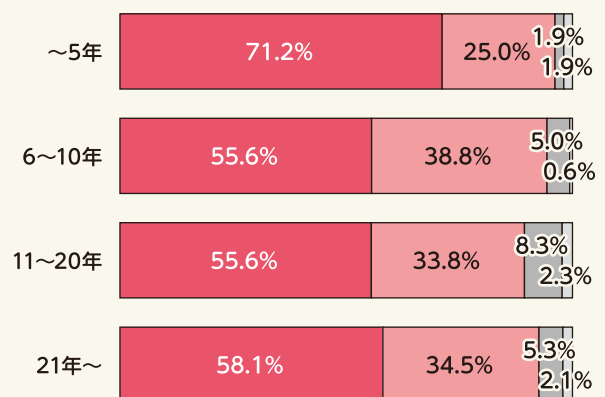
- 高まった
- どちらかという高まった
- どちらかという高まらなかった
- 高まらなかった



経験年数別：薦めたいか

Q. 講習会の受講を他の公認心理師にも薦めたいと思いますか

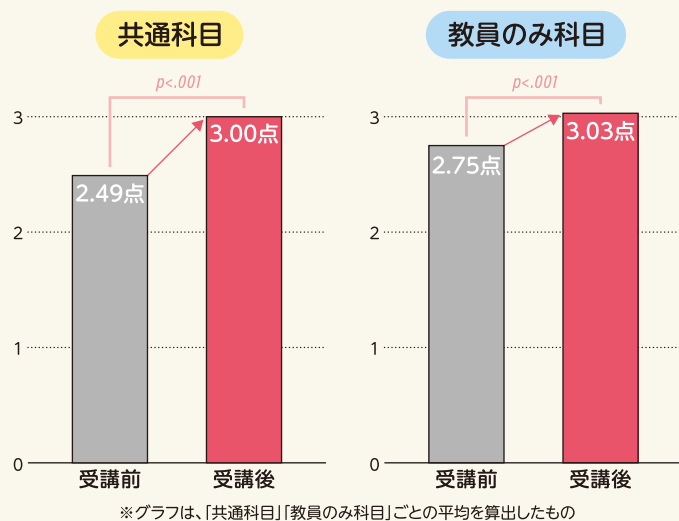
- 薦めたいと思う
- どちらかという薦めたいと思う
- どちらかという薦めたいと思わない
- 薦めたいと思わない



③ 受講前後の自信の変化

- 各科目の到達目標に関する参加者の自信の程度が受講前後で変化するか調べました。質問項目は、「共通科目」13項目、「教員のみ」科目11項目の計24項目で構成されています。
- 結果：「共通科目」「教員のみ科目」いずれも受講前後で有意に上昇していました。
- 本講習会受講により、実習等の指導に対応できる自信が高まったと考えられました。

科目別：受講前後の「自信」の比較



〈質問内容〉

「各科目の到達目標に関する以下の項目について、ご自身が対応できると思う自信の程度を教えてください。受講いただいた科目それぞれについてお答えください」

項目例)「心理支援の現場で求められる公認心理師の責務や資質を理解し、そのために実習・演習を通じて学生が身に付けるべき内容・到達目標を理解している」

〈回答形式〉

「十分に自信がある」=4点、「どちらかという自信がある」=3点、「どちらかという自信がない」=2点、「自信がない」=1点として、得点化。

〈回答者〉

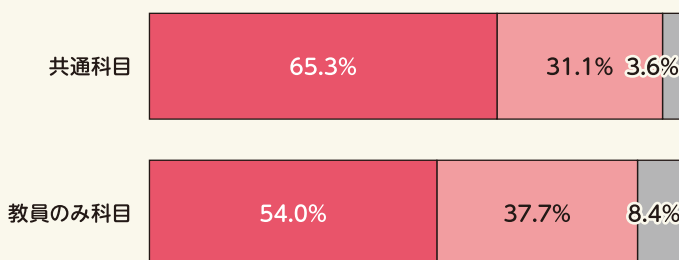
- 「共通科目」：実習指導者・担当教員ともに回答
- 「教員のみ科目」：担当教員のみが回答

④ 講習内容の適切さ

- 本講習会の各科目の内容が、カリキュラムの到達目標に即した適切な内容であったかどうかについて尋ねました。
- 結果：「共通科目」「教員のみ科目」ともに、「適切な内容だった」「どちらかと言うと適切な内容だった」を合わせた肯定的な評価が9割を占めていました。
- 受講科目はおおむねカリキュラムの到達目標に即した内容であったと考えられました。

科目別：到達目標に即した適切な内容だったか

- 適切な内容だった
- どちらかと言うと適切な内容だった
- どちらかという適切な内容ではなかった／適切な内容ではなかった



〈質問内容〉

「講習会で受講頂いた科目の内容は、各科目の到達目標に即した適切な内容になっていたと思いますか。受講いただいた科目について、それぞれお答えください」

〈回答形式〉

共通科目(6科目)、教員のみ科目(6科目)それぞれの科目について、「適切な内容だった」「どちらかという適切な内容だった」「どちらかという適切な内容ではなかった」「適切な内容ではなかった」の4択で回答

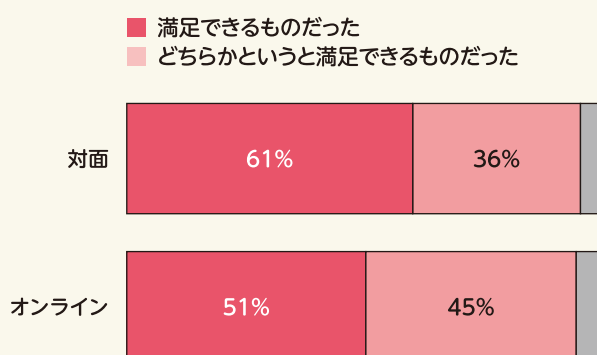
〈回答者〉

- 「共通科目」：実習指導者・担当教員ともに回答
- 「教員のみ科目」：担当教員のみが回答

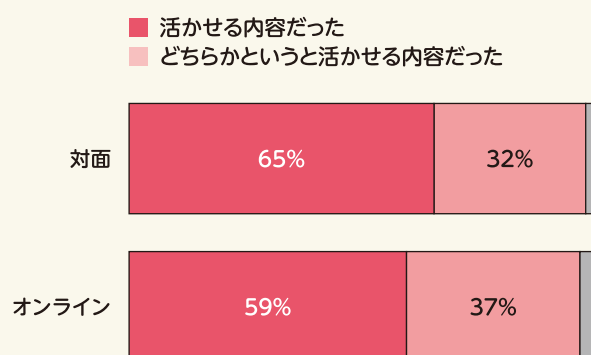
⑤参加形態の影響(満足度比較)

- 講習会の満足度に関するアンケート結果を、参加形態別(対面/オンライン)に整理しました。
- 結果:肯定的評価の割合(「満足できるものだった」「どちらかという満足できるものだった」の合計)に大きな違いはありませんでしたが、**対面参加の方が「満足できるものだった」の割合が高く、より高い満足感が得られる傾向**がみられました。

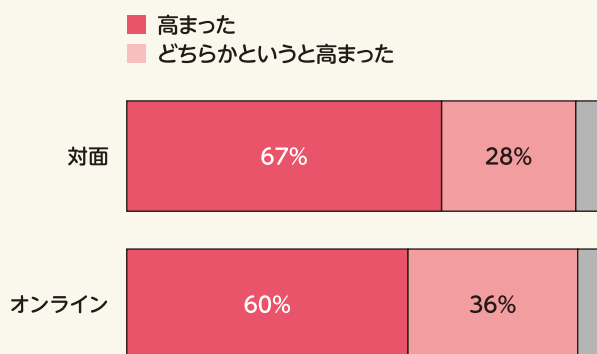
参加形態別:満足度



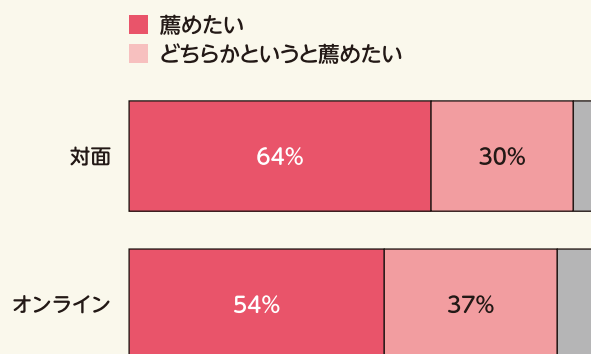
参加形態別:業務への活用



参加形態別:意識づけの高まり



参加形態別:薦めたいか



※否定的評価の%は省略

5. 受講者の声

講習会を受けた感想



実習指導者

教員の先生の指導内容やご苦労について知ることができた。今後は今まで以上に大学の先生方と情報共有を密に行っていきたい。



実習指導者

教員側から実習指導者側と意見のすり合わせができたことが参考になった。教員の本音、実習指導者の本音をそれぞれ聞けて良かった。



担当教員

巡回指導など自分が大学できていることを再確認することができてよかった。他の大学で実施している工夫も聞けたので取り入れていきたい。



担当教員

現場の実習指導者の先生方と交流する機会がなかなかないので、貴重な機会だった。これを機に学生への指導の在り方についても改めて見直そうと思った。



担当教員

これまではこの指導方法でいいのかという不安があったが、講習会を通して実習の到達目標など全体像を把握することができ、整理ができた。

その他、意見や要望



ディスカッションが有意義で、実習にかかわるモチベーションが上がった。実習指導者間でこうした交流の場が定期的にあるとよい。



教員・実習指導者とも互いに実習をよくしたいという思いがあることがわかった。これからはお互い遠慮せずコミュニケーションをとっていく必要があると感じた。



講習会に参加したことで、心理師業界の一体化や「育てる」という意識を改めて持てたような気がする。



学べたことはとても有意義だが、この内容を実際の現場に持ち帰って実現できるかは難しい。現場では色々な制約がある中で、実習体制を少しでも充実できるよう色々なことを提案していきたいと思った。



教員のみ科目は3日間の日程を確保する必要があり、業務調整をして時間を確保するのが大変だった。講習会は大事だと思うが、参加しやすくなるような工夫があると良いと感じた。

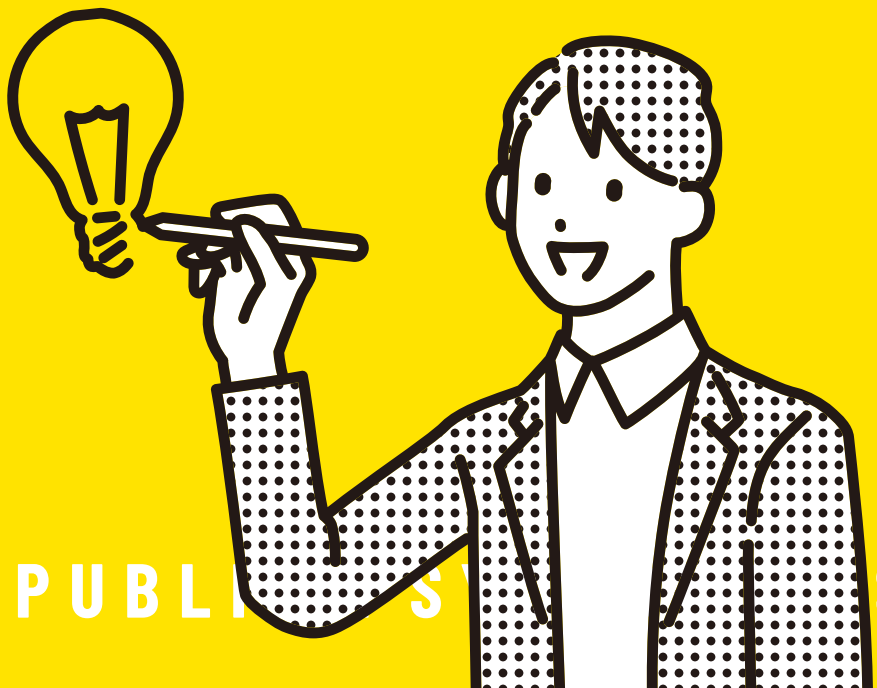


対面で話せる現地開催はオンラインとは違った良さがあると感じた。現地開催の枠がもう少し多いと思った。

4

CHAPTER

今後の展望

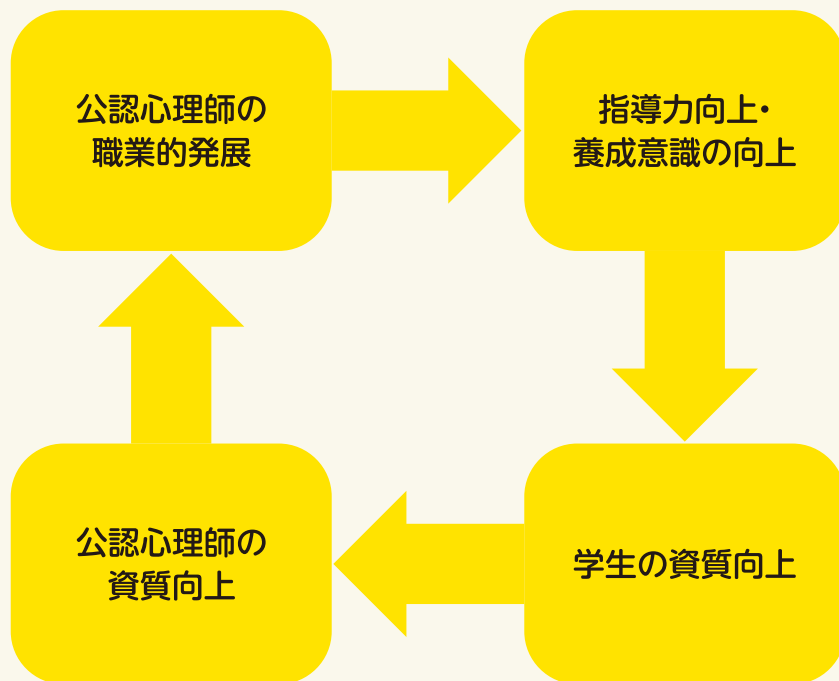


CERTIFIED PUBLIC ACCOUNTANT

これまでのレポートでは、申込者の分析結果と受講者アンケートの結果を中心に報告してきました。

アンケート結果などをふまえると、今後も「公認心理師全体の発展や成熟に向けて、教員と現場指導者といった立場の違いや分野・流派の違いを超えて公認心理師全体が連携すること、そしてそのような意識を持った公認心理師を育成すること」といった運営コンセプトが継続されていくことが望めます。そして、これからも実施結果を踏まえて講習会の内容や実施方法がアップデートされ、必要に応じてカリキュラムやシラバスの見直しもなされていくことが期待されます。いずれは、講習会で学んだことが実際に実習指導にどのように生かされているのかを検討したり、講習会の標準的な実施方法なども示されるようになってくると、さらによりよい講習会や人材育成のシステムが構築されていくことでしょう。

今後、講習会を受けた人が実習・演習の指導を行うことで質の高い公認心理師が養成され、その人たちが現場で活躍して今度は後進を育成する側にまわるというサイクルが定着し、公認心理師のさらなる職業的発展が図られていくことを願ってやみません。



おわりに

今回の講習会は、本当にたくさんの方々からのお力添えにより実施することができました。まずは、日本公認心理師協会、公認心理師の会、日本公認心理師養成機関連盟、公認心理師養成大学教員連絡協議会、日本心理臨床学会の皆さまに心より感謝申し上げます。それぞれの団体様が企画委員の先生をご推薦下さったおかげで、さまざまな立場や視点の意見を反映することができ、多くの関係者に講習会の情報を届けることが可能となりました。また、企画委員の先生方からは、運営に関するさまざまなアイデアやご助言をいただきました。オンライン上で書き込みを共有するツールの導入やきれいでアクセスのよいキャンパス会場の利用などは参加者の方からも大変好評でした。講師の先生方におかれましては、大変お忙しい時期に一から講義や演習の準備をしてくださって、本当にどうもありがとうございます。先生方が講習会全体の目的や構成を共有された上で、相互に内容や進め方を相談しながら準備してくださったおかげで、統一感や一体感のある内容となり、受講者の満足度や自信の向上につながりました。今回ご参加くださった1,000名近い公認心理師の先生方にもお礼を申し上げます。参加されている先生方と一緒に学び、作っていく講習会にしたいという運営スタッフの思いは本当にその通りになりましたし、講習会の場やアンケート等を通じて寄せてくださったご意見は、今後の講習会に大いに役立てることができそうです。最後になりましたが、講習会の運営にずっと伴走してくださった、株式会社浜銀総合研究所の皆さま、株式会社インソースの皆さま、厚生労働省公認心理師制度推進室の皆さまにも深く感謝申し上げます。

今回の講習会で生まれたたくさんのつながりが、これからも続いていきますように。

令和6年(2024年)3月

国立精神・神経医療研究センター病院 臨床心理部 事業担当者一同

〈本講習会の協力団体〉



〈主催・事務局〉



国立精神・神経医療研究センター病院



厚生労働省 令和5年度公認心理師実習演習担当教員及び実習指導者養成講習会事業

CHAPTER

參考資料

CERTIFIED PUBLIC PSYCHOLOGIST

〈参考資料〉

カリキュラム内容と到達目標（共通科目）

科目名	形式／時間数	科目内容	本講習会を通じた受講者の到達目標
公認心理師 実習演習 指導概論	講義／1.5時間 演習／0.5時間	(1)公認心理師養成における実習・演習の位置づけ ● 公認心理師養成の目的・目標、意義 ● 養成における実習・演習の位置づけ(制度・カリキュラム) ● 本講習会の概要と目的、本講習会を通じた受講者の到達目標 (2)公認心理師に求められる能力・資質 ● 公認心理師の職責(基本的姿勢・職業倫理・多職種連携等) ● 現場で求められる公認心理師の業務・資質 (3)実習演習を通じた学生の到達目標 ● 学部・大学院別にみた学生の到達目標	● 公認心理師の養成について、目的や意義を理解する。 ● 実習演習の制度上・カリキュラム上の位置づけを理解する。 ● 公認心理師の実習演習担当教員、実習指導者としての課題を自覚する。 ● 本講習会を通じた受講者の到達目標をふまえて学習目標を設定し、動機づけを高める。 ● 本講習会を通じた受講者の到達目標をふまえて学習目標を設定し、動機づけを高める。 ● 現場で求められる公認心理師の責務・資質を理解する。 ● 実習演習を通じて学生が身に付ける内容や到達目標を理解する。
実習 マネジメント論	講義／1.0時間 演習／1.0時間	(1)組織内におけるマネジメント ● 労務管理、業務分担、周知・連絡調整の工夫 ● 契約・事務手続き、情報管理・セキュリティの留意点 ● 安全管理・危機管理体制の構築、感染症対策 (2)実習施設と養成機関との協働におけるマネジメント ● 指導者に求められるリスク管理・安全管理体制の構築(倫理事項、情報管理、ハラスメント防止、学生への配慮等) ● 実習期間、実習費用の取り扱い ● トラブル対応と連携・危機管理体制の構築	● 学生を受け入れるにあたり必要な組織内マネジメントを理解し、受講者自身の所属施設における適切なマネジメントを具体的に理解できる。 ● 実習マネジメントの課題や好事例から、マネジメントの工夫や留意点を知る。 ● 実習施設と養成機関の間で必要な事前準備や連絡体制、各種手続き等を理解し、学生に対する指導・ケアのための連絡体制を構築できる。 ● 安全な実習環境を構築する際の、実習施設と養成機関の連携のあり方について理解する。 ● トラブルへの様々な対応のあり方を学び、学生や関係機関への適切なアプローチを取ることができる。
実習指導 方法論I	講義／1.0時間 演習／1.5時間	(1)心理実習・心理実践実習の概論 ● カリキュラム上の実習プログラムの位置づけ、目標、内容 ● 事前実習、学外施設実習、事後実習の役割 ● 「担当ケース」の考え方とその実際 (2)心理実習・心理実践実習プログラムの企画・設計 ● 事前実習、学外施設実習、事後実習の具体的な企画・設計方法 ● 施設特性、分野・領域の特性をふまえた設計 ● 学生の体験学習・自己理解を促すような実習内容の工夫 ● 要支援者と学生の安心安全を守るための基本知識の指導方法	● 公認心理師養成における心理実習・心理実践実習の位置づけを理解する。 ● 事前実習や事後実習の必要性と実際を理解する。 ● 「担当ケース」の考え方を理解し、実習プログラムの企画・設計に活用できる。 ● 行いうる様々な実習プログラムを具体的にイメージできる。 ● 受講者自身の指導技術・態度における課題を振り返り、指導への自己効力感を高める。 ● 受講者自身の実習プログラム企画・設計の特徴と課題、改善方法について認識を深める。 ● 実務上の懸念点への対応策を整理し、実習プログラムの企画・設計に活用できる。
実習指導 方法論II	講義／1.5時間 演習／2.0時間	(1)心理実習プログラムの運営方法 ● 見学を中心とした実習プログラムのオリエンテーション ● 体験学習を促進するための指導方法の工夫 ● 学生集団に対する指導方法の留意点 (2)心理実践実習プログラムの運営方法 ● 「担当ケース」に関する実習プログラムのオリエンテーション ● 学生の学習状況および学習ニーズのアセスメントと目標設定「担当ケース」の設定と指導方法 ● 学生との振り返りと実習記録の指導方法 ● 学生の評価と指導方法 ● 巡回指導の実施方法と活用	● 心理実習における、学生への指導方法(オリエンテーション、目標設定、振り返り、実習記録、評価、指示およびフィードバック等の仕方)が具体的にイメージできる。 ● 心理実践実習における、学生への指導方法(オリエンテーション、目標設定、振り返り、実習記録、評価、指示およびフィードバック等の仕方)が具体的にイメージできる。 ● 受講者自身の取組や指導方法の特徴・課題等を理解し、改善策を立案し、指導への自己効力感を高める。 ● 実習演習担当教員と実習指導者が連携し、巡回指導を効果的に実施できる。
実習演習指導 コミュニケーション論	講義／1.5時間 演習／1.5時間	(1)学習支援の基本 ● 指導者の基本的姿勢と倫理、合理的配慮 ● 学生の発達段階・学習プロセスの理解と適切な育成方針(主体的な学び、反省的実践の促進、ストレングスを伸ばす指導等) ● 教授法の諸形式と方法(個人指導と集団指導の活用) (2)実習演習におけるかかわり方 ● 臨床指導における関係性 ● 実習演習に求められるスーパービジョン ● スーパービジョンの諸形式と方法 ● 臨床指導のためのコミュニケーションスキル ● 学生の自己効力感を高める指導(困難事例への対処、学生の心理的ケア)	● 学生の発達のプロセスをふまえた適切なコミュニケーションを理解し、学生との適切な関係構築に活かせる。 ● 実習演習の目的や指導する学生に合わせて、より効果的な育成方針や教授法を選択できる。 ● スーパービジョンの基本と、実習演習上の学生指導におけるスーパービジョンについて理解する。 ● 受講者自身の指導者としてのコミュニケーション上の特徴と課題を自覚、内省し、適切な対応策を講じることができる。 ● 学習困難を抱える学生に対する対処・ケアの要点について知る。
公認心理師 実習演習 指導総論	講義／1時間 演習／1.0時間	(1)講習会の振り返り ● 受講者自身の学習目標をふまえた講習会の振り返り ● 今後の実習演習指導への活用 (2)公認心理師養成の展望 ● 公認心理師養成で目指すべき方向性や課題	● 指導上の課題が明確になり、解消のための対応策を整理できる。 ● 受講者自身の指導者としての成長機会を認識し、今後の指導力向上に向けた計画を立てる。 ● 実習施設と養成機関それぞれの役割と相互作用、連携上の工夫や留意点について整理する。 ● 講習会を通じて、公認心理師が目指すべき方向性や課題について認識を深め、受講者同士で共有し、学生指導および公認心理師の資質向上への動機づけを高める。
実習演習担当教員及び実習指導者共通科目			合計 14.0時間

〈参考資料〉

カリキュラム内容と到達目標（教員のみ科目）

科目名	形式／時間数	科目内容	本講習会を通じた受講者の到達目標
公認心理師による支援の実際	講義／2.5時間 演習／1.5時間	(1)各分野・領域の概要 【保健医療 福祉 教育 司法・犯罪 産業・労働】 ●各分野・領域における支援の実際と近年の動向 ●各分野・領域において連携する主要な他職種とその職務 ●各分野・領域における代表的なキャリアパス ●各分野・領域における実習演習上の実態と課題・留意点	●各分野・領域における公認心理師の業務内容や実習演習の実際について、具体的に理解する。 ●各分野・領域に係る他専門職や関係職員の職務を理解し、実習演習を取り巻く環境やキャリアイメージについて整理する。 ●実習指導者が養成機関に求める留意事項を理解し、対応策を検討する。
心理演習指導方法論	講義／2.0時間 演習／1.0時間	(1)心理演習の企画・設計 ●心理演習に含まれる事項(公認心理師カリキュラム等検討会)をふまえた心理演習の到達目標と公認心理師養成課程における位置づけ ●事前学習・演習プログラム・事後学習の目的と方法(プロセス把握) (2)安全・適切な管理・運用方法 ●実習演習担当教員に求められる体験学習を促すための基本的役割 ●課題設定および教材・評価方法 ●実習演習担当教員に求められるリスク管理・安全管理体制の構築(倫理事項、学生への配慮等) ●養成機関内での連携・危機管理体制の構築と運用上の留意事項	●公認心理師カリキュラム等検討会報告書(平成29年6月7日)における、「心理演習」に含まれる事項をふまえた到達目標を設定できる。 ●事前学習・演習プログラム・事後学習の目的と方法を理解し、プログラムを企画・設計できる。 ●演習指導における学生の体験学習を促すための働きかけを理解する。 ●演習指導における課題設定および教材・評価方法のあり方について理解する。 ●演習指導において、留意すべきリスク管理・安全管理(倫理事項、必要な配慮等)を理解する。 ●学習環境の整備に向けた連携を取ることができる。
心理演習方法論Ⅰ	講義／1.5時間 演習／2.0時間	(1)心理演習を通じて体験的に学ぶ【コミュニケーション】の留意点 ●演習を通じた学生の到達目標の理解と設定 ●様々なコミュニケーションの場面における学生の基本姿勢や留意点の教授方法 ●コミュニケーションの演習(コミュニケーションに関する諸理論をふまえた多様な演習プログラムの体験)における学生指導の方法 (2)【コミュニケーション】に関する効果的な指導方法 ●演習プログラムの企画・設計(個人ワーク・グループワーク) ●演習プログラムの運営・実施方法、実施の際の留意点 ●学生の評価とフィードバックの留意点 ●ロールプレイ・事例検討等の集団指導を活用した演習方法と効果的な運用	●学生が身に付けるべき内容を理解し、演習に活用することができる。 ●学生への指導方法(プログラムの運用、学生の理解度の確認、評価方法、フィードバックの仕方等)を身に付ける。 ●心理演習について、学生が経験しうるコミュニケーションの諸場面をふまえながら、受講者自身が企画・設計できる。 ●心理支援の実際に即した広範な視野をもとに、受講者自身の指導内容や指導方法の特徴や課題等について理解し、自ら向上を図ることができる。
心理演習方法論Ⅱ	講義／1.5時間 演習／2.0時間	(1)心理演習を通じて体験的に学ぶ【検査・アセスメント】の留意点 ●演習を通じた学生の到達目標の理解と設定 ●検査・アセスメントにおける学生の基本姿勢や留意点の教授方法 ●検査・アセスメントの演習(検査の実施と所見および支援計画の作成)における学生指導の方法 (2)【検査・アセスメント】に関する効果的な指導方法 ●演習プログラムの企画・設計(個人ワーク・グループワーク) ●演習プログラムの運営・実施方法、実施の際の留意点 ●学生の評価とフィードバックの留意点 ●ロールプレイ・事例検討等の集団指導を活用した演習方法と効果的な運用	●学生が身に付けるべき内容を理解し、演習に活用することができる。 ●学生への指導方法(プログラムの運用、学生の理解度の確認、評価方法、フィードバックの仕方等)を身に付ける。 ●心理演習について、関連科目と効果的に運動させながら、受講者自身が企画・設計できる。 ●心理支援の実際に即した広範な視野をもとに、受講者自身の指導内容や指導方法の特徴や課題等について理解し、自ら向上を図ることができる。
心理演習方法論Ⅲ	講義／1.5時間 演習／2.0時間	(1)心理演習を通じて体験的に学ぶ【心理面接】の留意点 ●演習を通じた学生の到達目標の理解と設定 ●心理面接における学生の基本姿勢や留意点の教授方法 ●心理面接の演習(心理療法の技法を用いた心理面接の体験)における学生指導の方法 (2)【心理面接】に関する効果的な指導方法 ●演習プログラムの企画・設計(個人ワーク・グループワーク) ●演習プログラムの運営・実施方法、実施の際の留意点 ●学生の評価とフィードバックの留意点 ●ロールプレイ・事例検討等の集団指導を活用した演習方法と効果的な運用	●学生が身に付けるべき内容を理解し、演習に活用することができる。 ●学生への指導方法(プログラムの運用、学生の理解度の確認、評価方法、フィードバックの仕方等)を身に付ける。 ●心理演習について、関連科目と効果的に運動させながら、受講者自身が企画・設計できる。 ●心理支援の実際に即した広範な視野をもとに、受講者自身の指導内容や指導方法の特徴や課題等について理解し、自ら向上を図ることができる。
心理演習方法論Ⅳ	講義／1.5時間 演習／2.0時間	(1)心理演習を通じて体験的に学ぶ【地域支援】の留意点 ●演習を通じた学生の到達目標の理解と設定 ●地域支援(アウトリーチ、チームアプローチ)における学生の基本姿勢や留意点の教授方法 ●地域支援の演習(多職種連携の事例検討、ロールプレイ)における学生指導の方法 (2)【地域支援】に関する効果的な指導方法 ●演習プログラムの企画・設計(個人ワーク・グループワーク) ●演習プログラムの運営・実施方法、実施の際の留意点 ●学生の評価とフィードバックの留意点 ●ロールプレイ・事例検討等の集団指導を活用した演習方法と効果的な運用	●学生が身に付けるべき内容を理解し、演習に活用することができる。 ●学生への指導方法(プログラムの運用、学生の理解度の確認、評価方法、フィードバックの仕方等)を身に付ける。 ●心理演習について、地域支援に係る素材を用いた事例検討やグループワークを効果的に活用しながら、受講者自身が企画・設計できる。 ●心理支援の実際に即した広範な視野をもとに、受講者自身の指導内容や指導方法の特徴や課題等について理解し、自ら向上を図ることができる。
実習演習担当教員向け科目 合計 20.0時間			

厚生労働省令和4年度 障害者総合福祉推進事業 公認心理師の多様な活躍につながる人事育成の在り方に資する調査より
<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/001113619.pdf>



公認心理師

実習演習担当教員及び
実習指導者養成講習会

令和5年度厚生労働省事業
公認心理師実習演習担当教員及び
実習指導者養成講習会

2023
レポート



2024年3月

国立精神・神経医療研究センター病院 臨床心理部

CERTIFIED PUBLIC PSYCHOLOGIST